

第 179 回 BA エグゼクティブサロン概要 (2/16)

テーマ：

「世界で進化するストップモーションアニメーション その現状」

〈キーワード：ストップモーションアニメーション〉

講演者：伊藤 有亮（いとう ゆういち）氏

アニメーションディレクター

卓話概要：

「クレイアニメ」「コマ撮り」として古くから親しまれるストップモーションアニメーションは、この 20 年ほどで独自の進化と発展を遂げ、AI 画像生成が話題となるこの時代に、なぜか世界中でかつてない隆盛を見せています。NHK「ニャッキ！」が放送 30 周年を迎え、東京藝術大学大学院映像研究科でも立体アニメーション領域で教鞭を取る講演者が、自身による作品と世界のアニメーション教育機関の視察体験をもとに、現代ならではのその魅力と、最前線の事例をお伝えします。

略歴：

1962 年 東京生。東京藝術大学美術学部デザイン科卒業。VFX (株式会社白組)、コンピューター映像制作を経て 1998 年 I.TOON Ltd. を設立。同代表。クレイを中心にあらゆる技法を駆使して、アニメーションやキャラクターデザイン、クリエイティブディレクションの分野で活動。

代表作に、放送 30 周年を迎える NHK E テレ「ニャッキ!」、NHK みんなのうた「グラスホッパー物語」、宇多田ヒカル「traveling」「SAKURA ドロップス」MV アニメーションパート、平井堅「キミはともだち」MV、松竹 110 周年プレミアムアニメーション「ノラビッツ・ミニッツ」、他。

TVCM では ミスタードーナツ「ポン・デ・ライオン」シリーズ、花王「キュキュット」シリーズ、フレンテ「ピンクモモンキー」シリーズ、わかさ生活「ブルーベリーアイ」シリーズ、NEC「バザールでござーる」シリーズ他多くのアニメーションディレクターを務める。

その他に、世界初のハイビジョン立体視クレイアニメーション「THE BOX」(2002)、クレイアニメ制作ソフト「CLAY TOWN」プロデュース (2006)、全国都市緑化横浜フェア公式マスコット「ガーデンベア」 (2017) デザイン等。

2006 年より横浜「創造空間万国橋 SOKO」にてストップモーションを発展させた「ネオクラフトアニメーション」作品を制作。オリジナル短編「HARBOR TALE」(2011) は チェコ共和国 ZLIN FILM FESTIVAL 最優秀アニメーション賞・観客賞。2 作目「Blue Eyes -in HARBOR TALE」(2014)、TVK40 周年アニメーション「DoronCoron」(2012) 等が 24 カ国で上映・受賞。

主な受賞に第 1 回文化庁メディア芸術祭アニメーション部門優秀賞 (1997)。横浜市文化賞・文化芸術奨励賞 (2007)。2018 年スロバキア ALBIN BRUNOVSKY 名誉勲章受賞 (2018)。

東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻教授 (2008～)。TBS DigiCon 6 審査員 (2006～)、Panasonic KWN JAPAN 審査員、日本アニメーション協会監事。ASIFA- JAPAN 理事。

<I.TOON Ltd.公式サイト> <http://www.i-toon.org/>

